

## 第1 「民族共生の象徴となる空間」の具体化について（1/2）

### I 象徴空間の意義・目的、II 位置、名称等

- 【象徴空間の意義・目的】アイヌ文化の復興・民族の共生
- アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターという象徴空間の位置付けを踏まえ、アイヌ語等の愛称を設定（H31公募）。

区分	これまでの呼称	正式名称(案)
全体	民族共生の象徴となる空間	民族共生象徴空間
博物館	国立のアイヌ文化博物館(仮称)	国立アイヌ民族博物館
公園	国立の民族共生公園(仮称)	国立民族共生公園

### III 機能とそれを支える中核区域の主要施設、IV 中核区域

将来へ向けてアイヌ文化の継承及びアイヌ文化の創造発展につながるための拠点となるよう、中核区域に「国立アイヌ民族博物館」と「国立民族共生公園」を整備。

#### 中核区域

#### 国立民族共生公園

- 体験交流施設等



### V 慰霊施設・遺骨の集約

アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現に向けて、ポロト湖の東側の太平洋を望む高台に整備。

#### 慰霊施設

墓所となる建物・慰霊行事施設 (イメージ)



イチャルパ・シンヌラツパ (慰霊儀式イメージ)

### VI 関連区域

中核区域と周辺の関連区域が一体となり、世代を超えてアイヌ文化を体験できる「フィールドミュージアム」を構成。

#### 【周辺の関連区域／ポロト湖周辺図】



#### 慰霊施設

ヨコスト湿原・海岸

# 第1 「民族共生の象徴となる空間」の具体化について (2/2)

## VII アイヌ文化復興に向けた全国的なネットワークの構築

狭義の文化復興(アイヌに特化した施策)にとどまらず、産業振興、観光振興、地方創生など、各省庁・自治体が有するプログラム等も戦略的に活用して、各地域の幅広いアイヌ文化復興を推進するための枠組みを構築。



象徴空間はアイヌ政策の「扇の要」としての位置付け

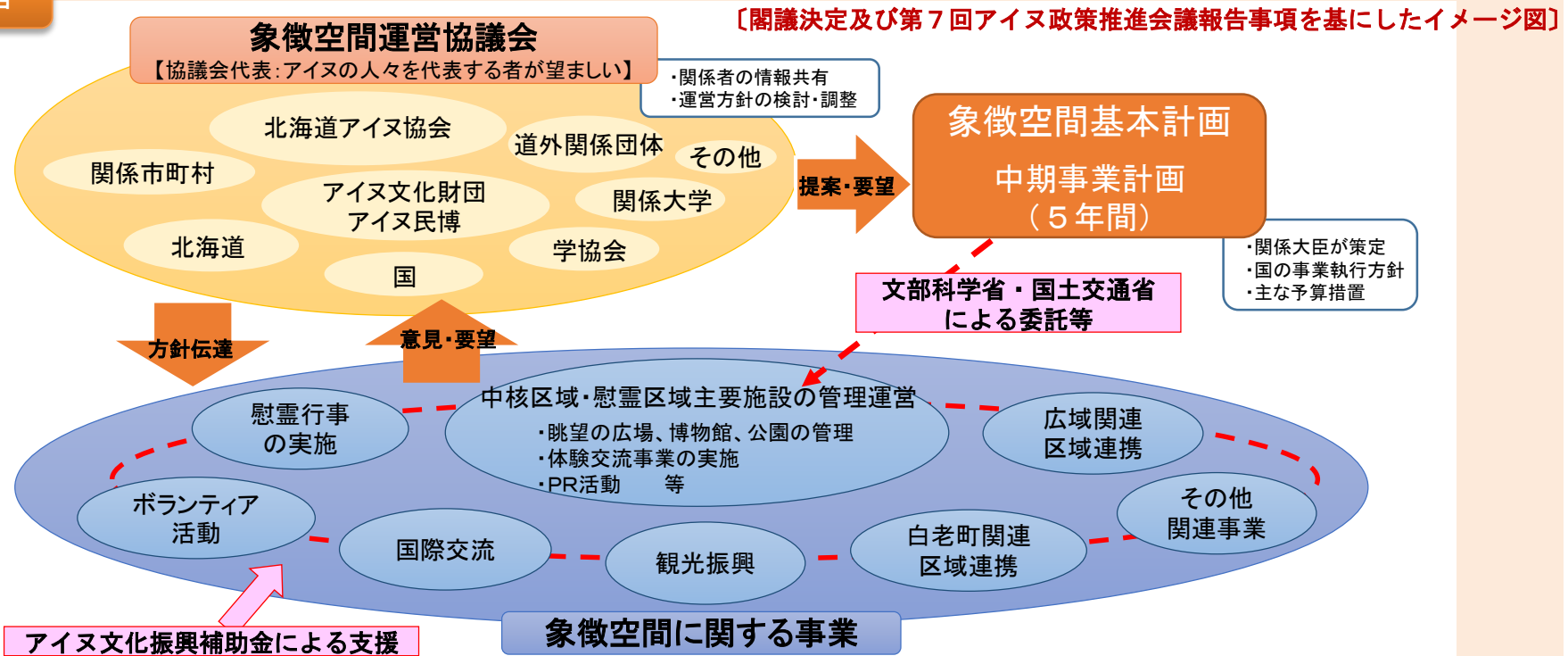
## IX 地方公共団体、民間に協力いただきたい事項

- (1)ポロト温泉の移設・再構築
- (2)コーポレート・パートナーやボランティアの活用

## X 引き続き検討が必要な事項

- (1)来場者ニーズに応える体制の検討(交通アクセス等)
- (2)その他の機能の取扱い(クラフト工房群等)
- (3)託児所・保育所や宿舎(教育研修・人材育成施設)の整備

## VIII 管理運営





## 第2 北海道外アイヌの生活実態調査を踏まえた全国的見地からの施策の展開について

### 1. 生活相談に対応するための措置について

状況組

○生活相談の試行的な実施  
(H25.9～H26年度末／厚生労働省)

今後の  
施策

「生活相談充実事業」(H28／厚生労働省)  
アイヌの相談員による電話相談窓口を設置し、アイヌの人々が抱えている生活上の悩みや様々な困りごとに対応。

### 2. アイヌの就労を支援する職業訓練について

状況組

○職業訓練相談会 アイヌ文化交流センター(H26／厚生労働省)  
○職業訓練相談会 ハローワーク新宿 (H27／厚生労働省)

アイヌ関係団体の主催イベントにおける職業訓練の相談及び職業相談・職業紹介の検討等、更なる取り組みを求める。

### 3. 高等教育機関への進学支援について

状況組

○道外に居住するアイヌの子弟が、高等教育機関に進学・在学する場合における日本学生支援機構による無利子奨学金の貸与基準の緩和(H26)、同基準による貸与の開始(H27)

より多くの北海道外に居住するアイヌの人々に活用されるよう、一層広く周知されることが求められる。

### 4. 首都圏におけるアイヌの人々の交流の場の確保について

状況組

○アイヌの人々のニーズをより詳細に把握するため、内閣官房による説明会の実施。(H27)

首都圏のアイヌの人々と内閣官房が緊密に連携・協議し、象徴空間の取組に位置付けるなど、実現に向けて更なる検討、調整等を円滑に進める。

## 第3 国民理解を促進するための活動について

### 「国民のアイヌに対する理解度についての意識調査」の実施

H25  
調査結果

○アイヌの人々に関し、現在は差別や偏見がなく平等であると思うか  
「平等ではないと思う」 } 33.5%  
「どちらかということ平等ではないと思う」

H27・H28  
調査結果

○差別や偏見の有無  
「あると思う」 国民全体：18% アイヌの人々：72%  
○差別や偏見の原因・背景  
「アイヌの歴史に関する理解の不十分さ」  
国民全体：65% アイヌの人々：78%  
○差別や偏見をなくすために必要な取組  
「アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育」  
国民全体：73% アイヌの人々：道内80% 道外85%



国民全体とアイヌの人々との意識の差はまだまだ大きく、次のような課題への対応が求められる。

課題への  
対応

- ① アイヌの人々やアイヌ文化と接する機会の増加  
新千歳空港をはじめとする北海道のゲートウェイとなる主要施設における展示等の更なる充実等
- ② アイヌの歴史や文化の理解を促進する取組の強化  
学校教育等の場におけるアイヌの歴史・文化に関する教育機会の増加に向けた取組等
- ③ アイヌの人々の職業訓練・教育支援等  
道外施策の充実等
- ④ 総合的な施策の展開  
法的措置の必要性についても総合的に検討